



(別紙 1)

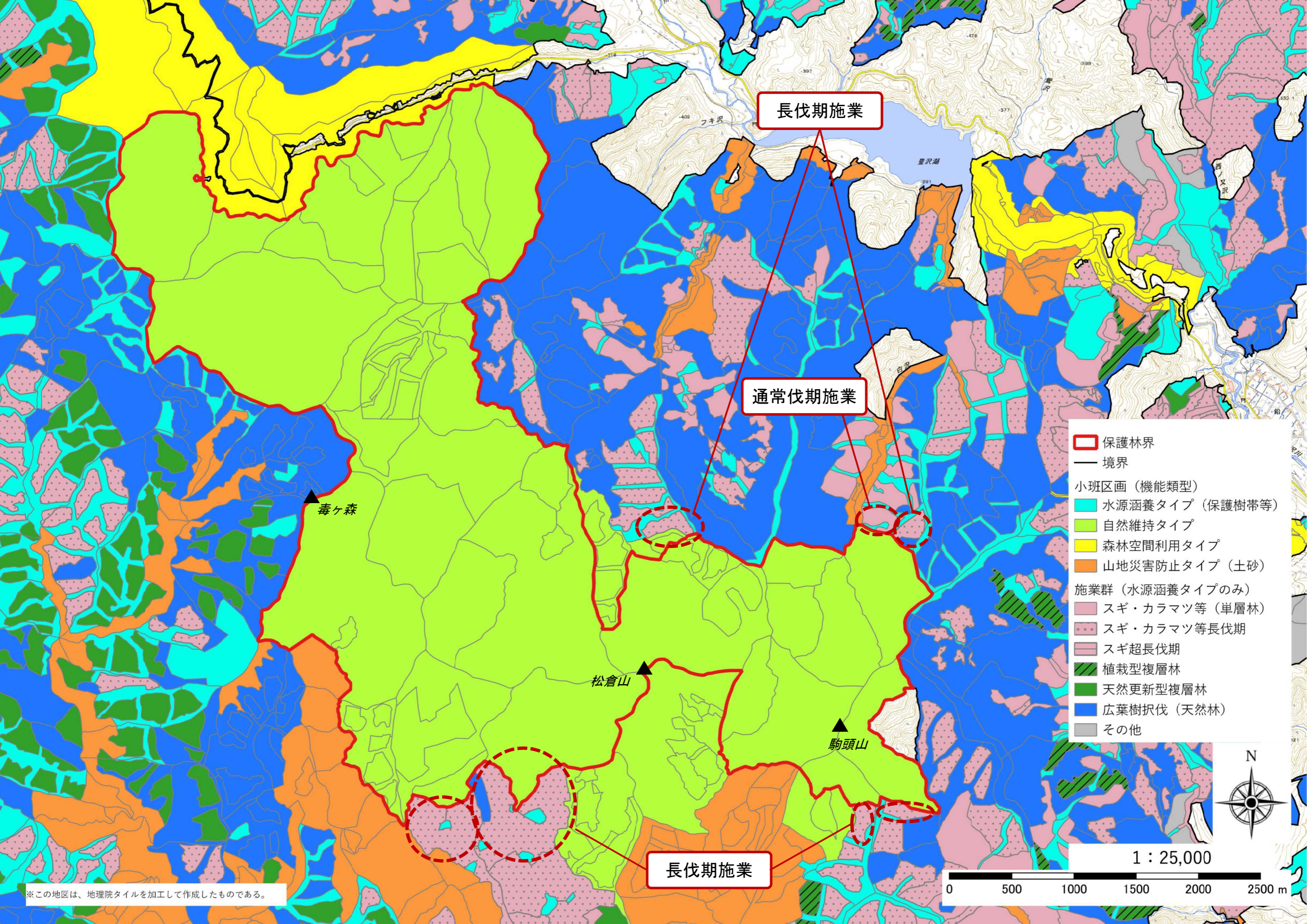
ぶすがもり

毒ヶ森生物群集保護林

保護林名	毒ヶ森生物群集保護林	林種	面積(ha)	設定の経緯	位置図		
管轄森林管理署名	岩手南部森林管理署 [北上川中流森林計画区]	天然生林	1,639.11				
所在地	岩手県花巻市	人工林	0.00				
面積	1,639.11ha	その他(高山帯、湿地、その他雑地外)	0.00				
設定・変更年	平成10年1月7日(設定)	計	1,639.11				
保護林概況写真		保護林の概要等			過去の保護林モニタリング調査概要		
		設定目的等	毒ヶ森周辺の植物群落は、日本海型のブナ林であるブナ-チシマザサ群落を主体とする。松倉山山頂付近に「ブナ-ツツジ類-マルバマンサク型」の低木林、松倉山と駒頭山の間の稜線にミヤマナラやアカミノイヌツゲ等からなる亜高山落葉広葉低木林、雪崩地植物群落であるヒメヤシャブシ・タニウツギ群落、湿性植物群落等がある。貴重な種として、フガクスズムシ、トガヒゴタイ、コアニチドリ、ミヤマアブラスキ、イワテシオガマ、エゾシオガマ、タテヤマウツボグサ、オオバツツジ、ミヤママンネングサ、イワタバコ、イワショウブ、ヒモカズラ、テツカエデ、オクエゾサイシン等がある。このような多様な植物群落を一体のものとして保存するために設定する。			直近のモニタリング調査年度及び結果概要(調査実施項目・調査手法含む)	【平成28年度】 [調査項目]森林調査 ・ブナ林を中心とした植物群落が維持されている。
保護・管理及び利用に関する事項		自然の推移にゆだねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。					
法令等に基づく指定概況		水源かん養保安林、保健保安林、鳥獣保護区					

項目	参照資料	所見
周辺の森林施業の現況	①機能類型分布図	保護林の周辺には、機能類型の分布から着目すると、自然維持タイプ、森林空間利用タイプ、山地災害防止タイプ及び水源涵養タイプの4類型が分布している。保護林区域の北側及び南側には森林空間利用タイプの天然林、自然維持タイプの天然林及び山地災害防止タイプの天然林及び人工林が分布する。南側には、山地災害タイプの人工林が1小班隣接するが、「管理経営の指針」に基づき「森林の現状に急激な変化を与えないよう」に皆伐は原則的に行わないため、施業による保護林区域への影響は小さいと史料される。 その他、多くが水源涵養タイプの林分が隣接するが、そのほとんどが天然林である。なお、一部、将来的に皆伐が想定される「スギ・カラマツ等施業群」及び「スギ・カラマツ等長伐期施業群」に分類される林分が隣接するため、複層林等を指向する施業群への変更を進める等、保護林区域への急激な変化を与えない施業をすることとする。
法令制限の現況	②法令制限等分布図	自然公園法等の法令制限は無い。 なお、保護林区域及び周囲のほとんどが水源かん養保安林に指定されている外、一部、保健保安林に指定されている。また、一部鳥獣保護区に指定されている。
利用に関する現況	②法令制限等分布図	本保護林は、花巻温泉郷からさらに奥に入った、花巻市の西端、北上市との境にある、ブナの天然林がまとまって残っている箇所であり、人の入り込み等はほとんど無い。 一部、松倉山や駒頭山に歩道があるが、利用は僅少である。
植生に関する現況	③植生図	大半がチシマザサ-ブナ群団を呈し、オオバクロモジ-ミズナラ群集も点在している。沢地形等の急峻な地形には、ヒメヤシャブシ-タニウツギ群落が見られる。尾根筋には一部、クロベ-キタゴヨウ群落が見られる。
その他		

地帯区分(案)	保護林の周辺については、急激な環境の変化を及ぼすような施業を実施する林分は少ない。一部、将来的に皆伐が想定される林分が隣接するが、施業群の変更等により対応が可能であり、保護林周辺に緩衝帯的な役割を持つ林分を配置することが可能である。また、保護林内の植生については、そのほとんどがまとまったブナ天然林であり、一体的に保存することが望まれる。また、設定当初から当該箇所にあるブナ天然林を十分な範囲で保存していると思料されるため、保護林区域の拡大はしない。以上から、保全利用地区は設定せず、保護林区域全域を保存地区とする。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



長伐期施業

通常伐期施業

長伐期施業

- 保護林界
- 境界
- 小班区画 (機能類型)
- 水源涵養タイプ (保護樹帯等)
- 自然維持タイプ
- 森林空間利用タイプ
- 山地災害防止タイプ (土砂)
- 施業群 (水源涵養タイプのみ)
- スギ・カラマツ等 (単層林)
- スギ・カラマツ等長伐期
- スギ超長伐期
- 植栽型複層林
- 天然更新型複層林
- 広葉樹択伐 (天然林)
- その他

毒ヶ森

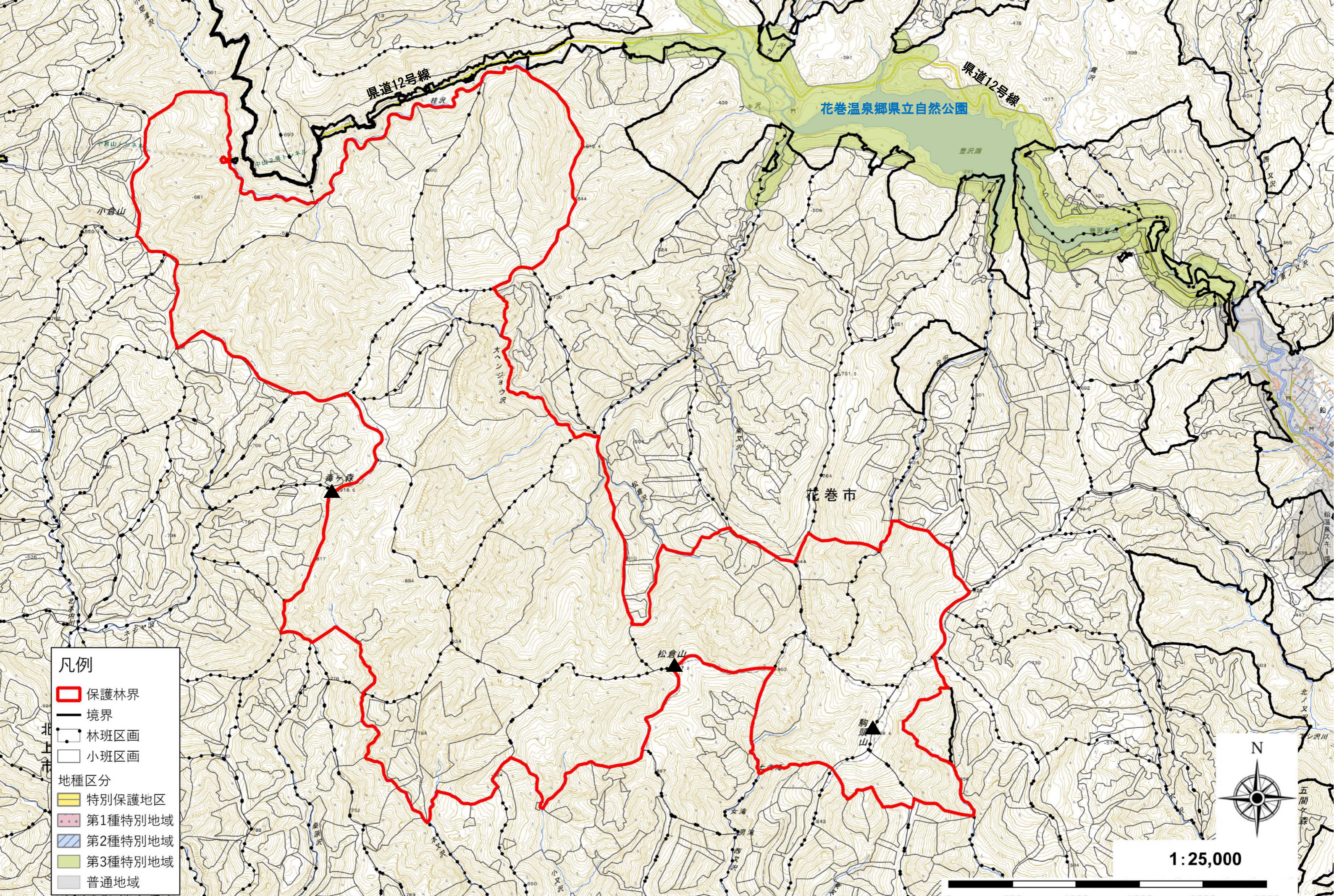
松倉山

駒頭山

1 : 25,000

0 500 1000 1500 2000 2500 m

※この地区は、地理院タイルを加工して作成したものである。



県道12号線

県道12号線

花巻温泉郷県立自然公園

豊沢湖

花巻市

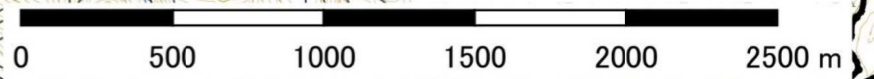
松倉山

駒山

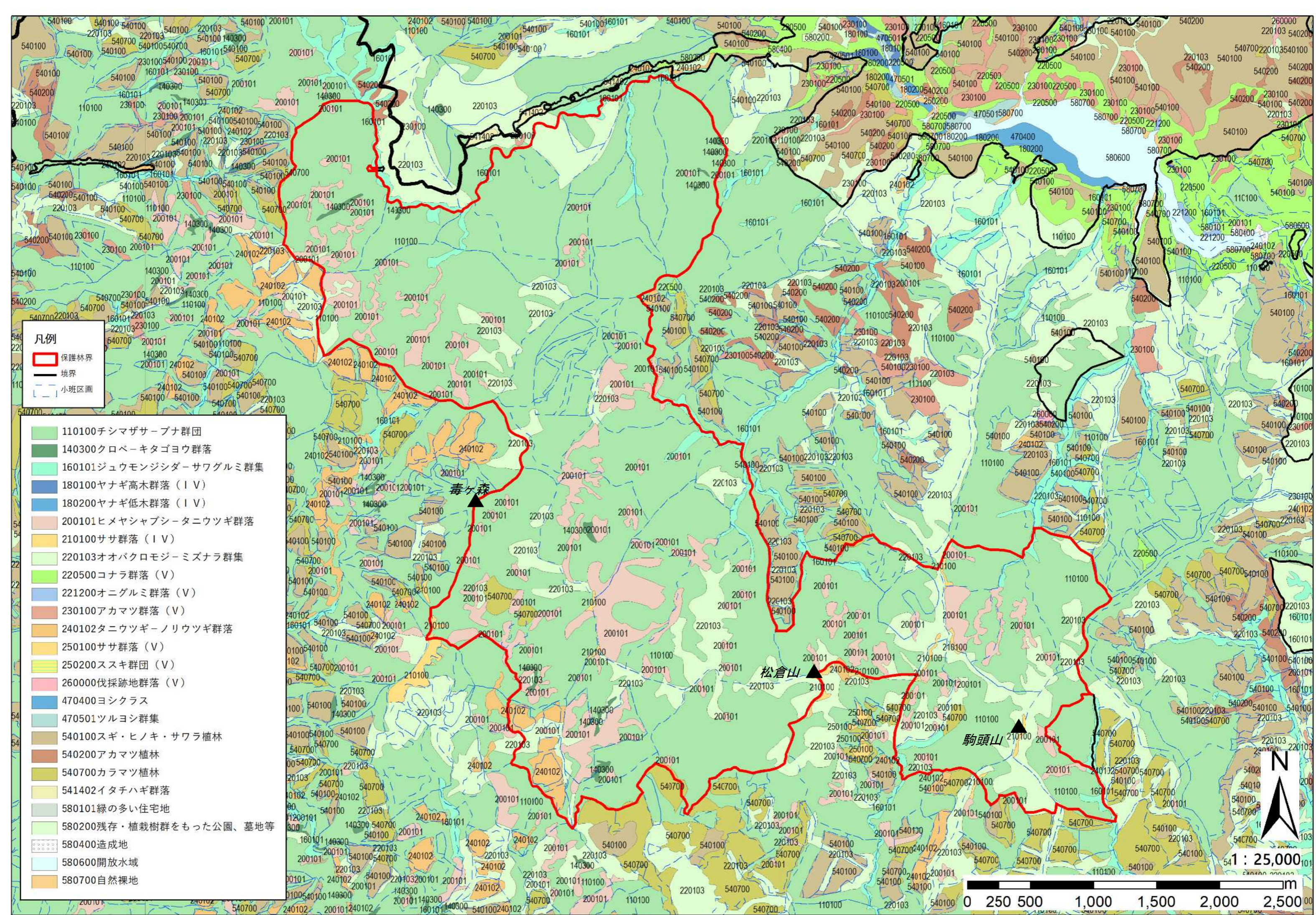
- 凡例
- 保護林界
 - 境界
 - 林班区画
 - 小班区画
 - 地種区分
 - 特別保護地区
 - 第1種特別地域
 - 第2種特別地域
 - 第3種特別地域
 - 普通地域



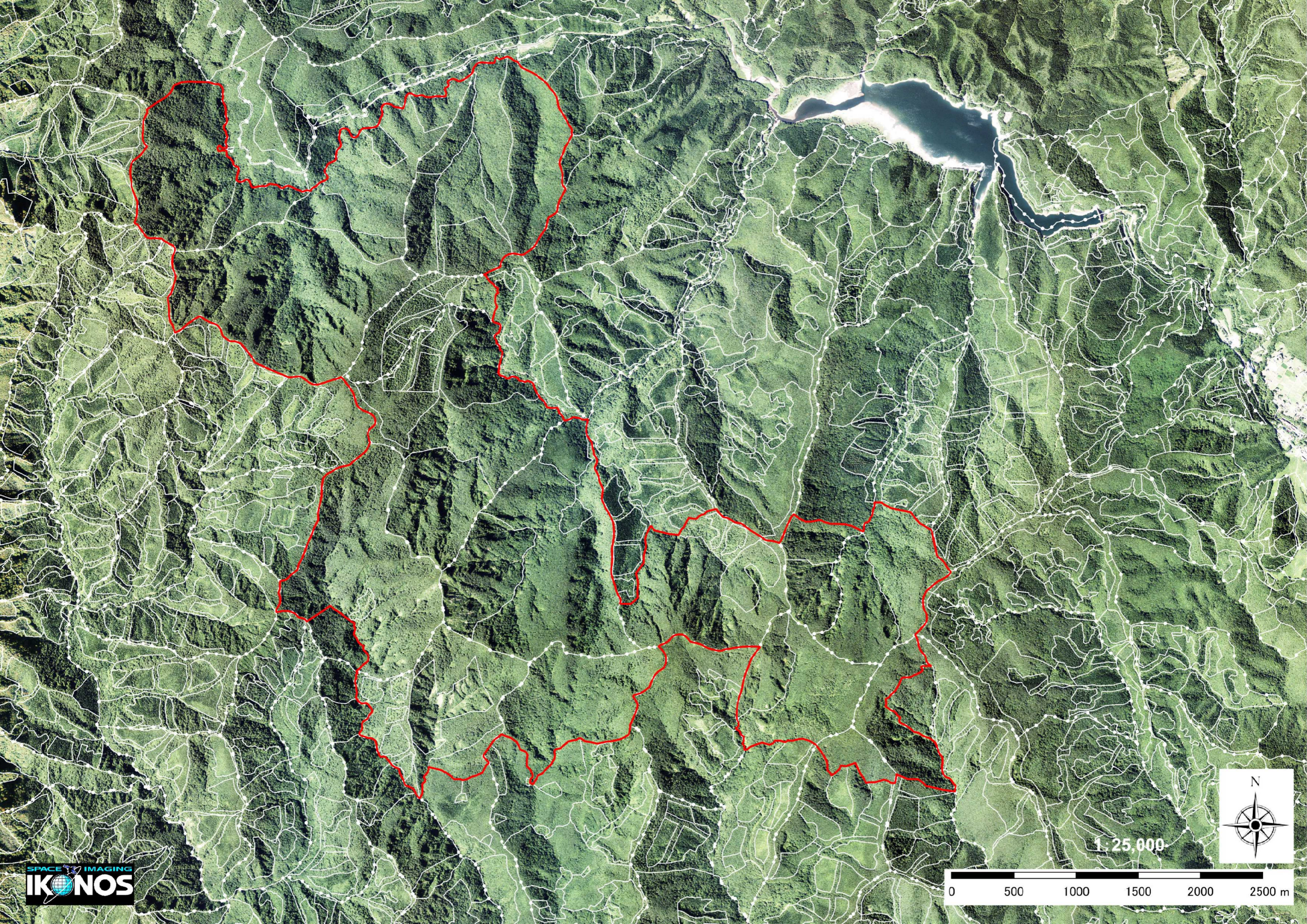
1:25,000



※この地図は地理院タイル及び「国土数値情報（自然公園地域データ）」（国土交通省）を使用し、東北森林管理局が作成・加工したものである。





※この植生図は、1/25,000植生図GISデータ（環境省生物多様性センター）を使用し、東北森林管理局が作成・加工したものである。



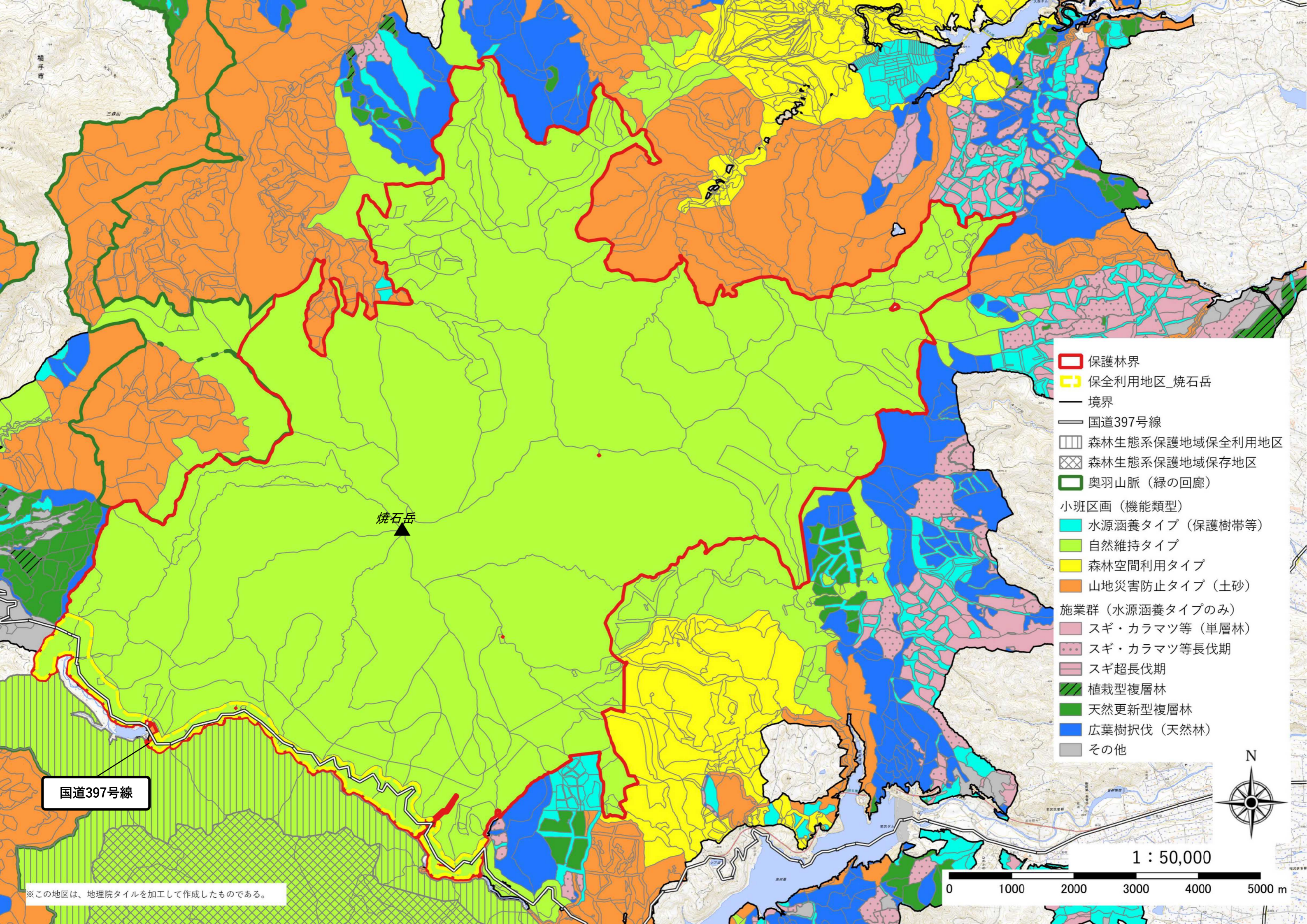
(別紙 2)

焼石岳生物群集保護林

保護林名	焼石岳生物群集保護林	林種		面積(ha)		設定の経緯	位置図 	
管轄森林管理署名	岩手南部森林管理署 [北上川中流森林計画区]	天然生林		3,546.13		位置図		
所在地	岩手県北上市、奥州市、和賀郡西和賀町、胆沢郡金ヶ崎町	人工林		5.93				
面積	8,768.22ha	その他(高山帯、湿地、その他雑地外)		5,216.16				
設定・変更年	平成10年1月7日(設定)	計		8,768.22				
保護林概況写真 		保護林の概要等			過去の保護林モニタリング調査概要			
		設定目的等	<p>焼石岳周辺の高山帯は「ハイマツ-コケモモ型」を主体に「ハクサンイチゲ型」「ガンコウラン-ミヤマダイコンソウ型」等の植物群落からなり、貴重種としてはリシリシノブ、カンチスゲ(南限・国内唯一)、エゾノミクリゼキショウ(南限・本州唯一)、タカネセンブリ(南限)サヤスゲ、マシクスゲモドキ、ミヤマゼキショウ、キバナシヤクナゲ等がある。</p> <p>亜高山帯には「ミヤマナラ-チシマザサ型」、山地帯には「ブナ-チシマザサ型」を主体として、乾性尾根部に「キタゴヨウ林」、湿性沢部に「トチ-カツラーユキツバキ-オシダ型」の群落組成がみられ、ヒメカイウ(南限)の群落のある中間湿原もある。</p> <p>このような多様な植物群落を一体のものとして保存するとともに、奥羽山脈縦断自然樹林帯(奥羽山脈緑の回廊)の核として森林生態系の効果的な保全に資するために設定する。</p>			<p>直近のモニタリング調査年度及び結果概要(調査実施項目・調査手法含む)</p> <p>【平成28年度】 [調査項目]森林調査 ・低木林やブナ林を中心とした植物群落が維持されている。 ・湿原については、池塘が点在し湿性草本が生育しており、湿原植生が維持されていた。</p>		
		保護・管理及び利用に関する事項	自然の推移にゆだねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。					
		法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林、鳥獣保護区、岩手県指定天然記念物(若柳のヒメカイウ群落)、栗駒国定公園第1～3種特別地域					

項目	参照資料	所見
周辺の森林施業の現況	①機能類型分布図	<p>保護林の周辺について、機能類型の分布から着目すると、自然維持タイプ、森林空間利用タイプ、山地災害防止タイプ及び水源涵養タイプの4類型が分布している。なお、その大半が自然維持タイプないしは山地災害防止タイプである。</p> <p>隣接する山地災害タイプの林分には一部人工林が含まれるが、「管理経営の指針」に基づき「森林の現状に急激な変化を与えないよう」に皆伐は原則的に行わないため、保護林区域への影響は小さいと史料される。</p> <p>その他、水源涵養タイプの林分が隣接するが、全てが天然林である。</p>
法令制限の現況	②法令制限等分布図	<p>保護林区域の大半が栗駒国定公園第1種特別地域であり、周囲に第2種及び第3種特別地域に指定されている。</p> <p>南西側は胆沢川を挟んで、栗駒山・折ヶ森山周辺森林生態系保護地域(保全利用地区)が接している。</p> <p>保護林区域および周辺の大半が水源かん養保安林であり、一部夏油温泉側が土砂流出防備保安林となっている。また、一部、保健保安林に重複指定されている。</p> <p>鳥獣保護区は保護林区域の一部が指定されている。</p>
利用に関する現況	②法令制限等分布図	<p>本保護林の中心には、日本二百名山にも選定されている焼石岳(1547.3m)があり、年間で700人前後(奥州市調べ)の登山客が訪れる。</p> <p>登山口は奥州市側の2カ所と西和賀町の1カ所、秋田県東成瀬村の1カ所からの入山が主であり、奥州市側の登山口が比較的利用が多い。登山道はそれぞれの登山口から焼石岳山頂に至る道に加え、焼石岳頂上から東に延びる稜線に登山道がある。保護林区域内に2カ所、避難小屋が設置されている。</p> <p>また、本保護林の南西側には胆沢川沿いに奥州市水沢から横手市に至る国道397号線が横断している。</p>
植生に関する現況	③植生図	<p>山地帯はチシマザサ-ブナ群団を呈し、一部、沢地形等の急峻な地形には、ヒメヤシヤブシ-タニウツギ群落が見られる。</p> <p>1,100～1,200m付近からウラジロヨウラク-ミヤマナラ群団といった低木林が広がり、1,400～1,500m付近からは雪田草原や高山低木群落が見られるようになる。</p> <p>以上のように、本保護林は焼石岳山頂を頂点に垂直分布を呈する。</p>
その他		

地帯区分(案)	<p>保護林の周辺については、急激な環境の変化を及ぼすような施業を実施する林分は少なく、保護林周辺に緩衝帯的な役割を持つ林分を配置することが可能である。</p> <p>また、保護林内の植生については、山地帯に広くブナ天然林が広がり、上部には亜高山帯植生や雪田草原等が見られ、これらの植生を一体的に保存することが望まれる。また、設定当初から焼石岳周辺の垂直分布を十分な範囲で保存していると史料されるため、保護林区域の拡大はしない。</p> <p>なお、国道が保護林区域内を横断しており、災害復旧工事等が継続的に想定されるため、国道周辺の小班を保全利用地区とする。</p>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



- 保護林界
- 保全利用地区_焼石岳
- 境界
- 国道397号線
- 森林生態系保護地域保全利用地区
- 森林生態系保護地域保存地区
- 奥羽山脈（緑の回廊）
- 小班区画（機能類型）
- 水源涵養タイプ（保護樹帯等）
- 自然維持タイプ
- 森林空間利用タイプ
- 山地災害防止タイプ（土砂）
- 施業群（水源涵養タイプのみ）
- スギ・カラマツ等（単層林）
- スギ・カラマツ等長伐期
- スギ超長伐期
- 植栽型複層林
- 天然更新型複層林
- 広葉樹択伐（天然林）
- その他

焼石岳 ▲

国道397号線



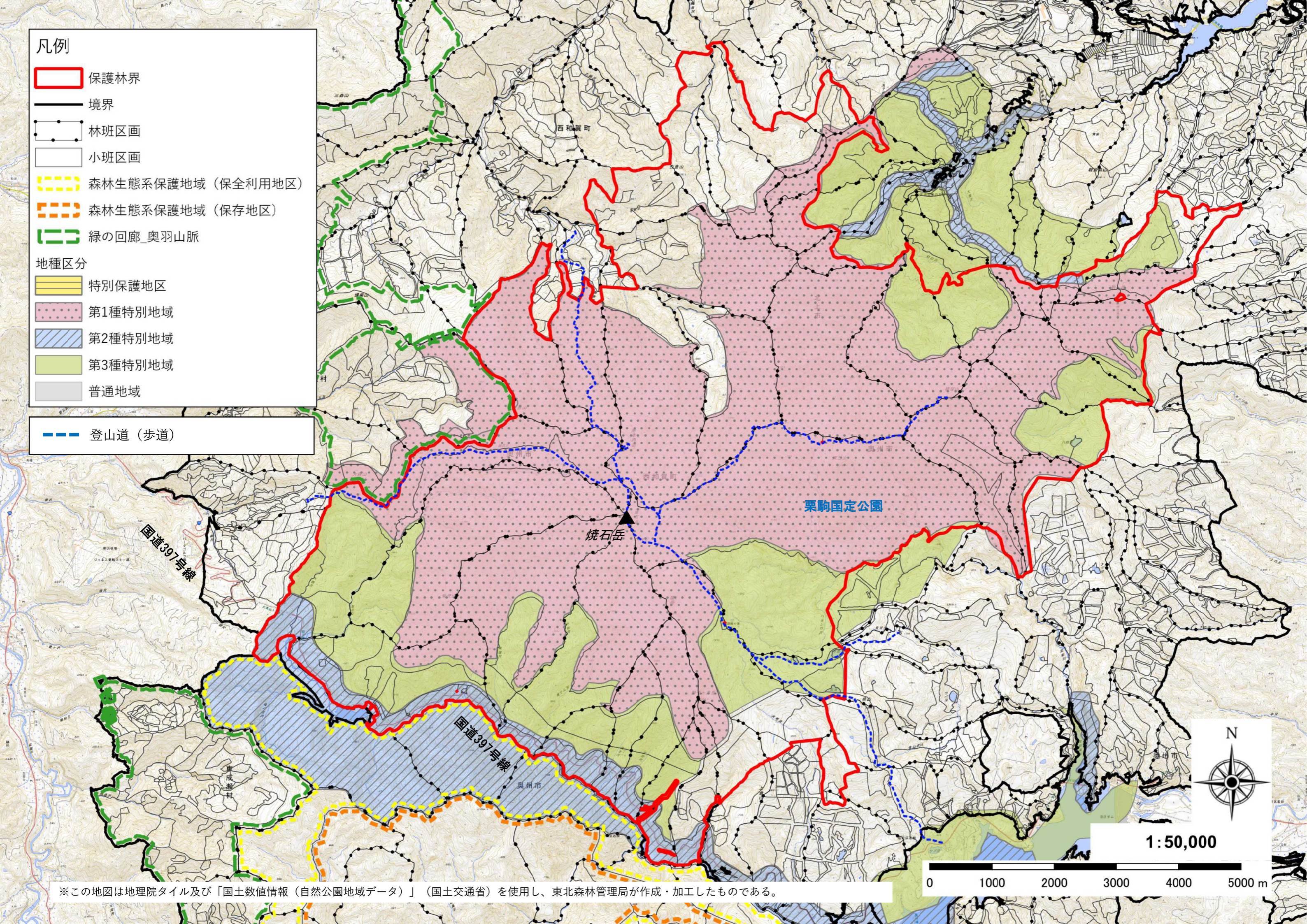
1 : 50,000



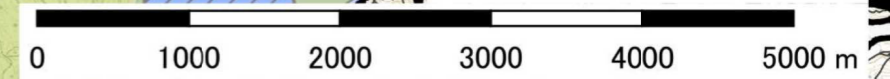
※この地区は、地理院タイルを加工して作成したものである。

凡例

- 保護林界
- 境界
- 林班区画
- 小班区画
- 森林生態系保護地域（保全利用地区）
- 森林生態系保護地域（保存地区）
- 緑の回廊_奥羽山脈
- 地種区分
 - 特別保護地区
 - 第1種特別地域
 - 第2種特別地域
 - 第3種特別地域
 - 普通地域
- 登山道（歩道）

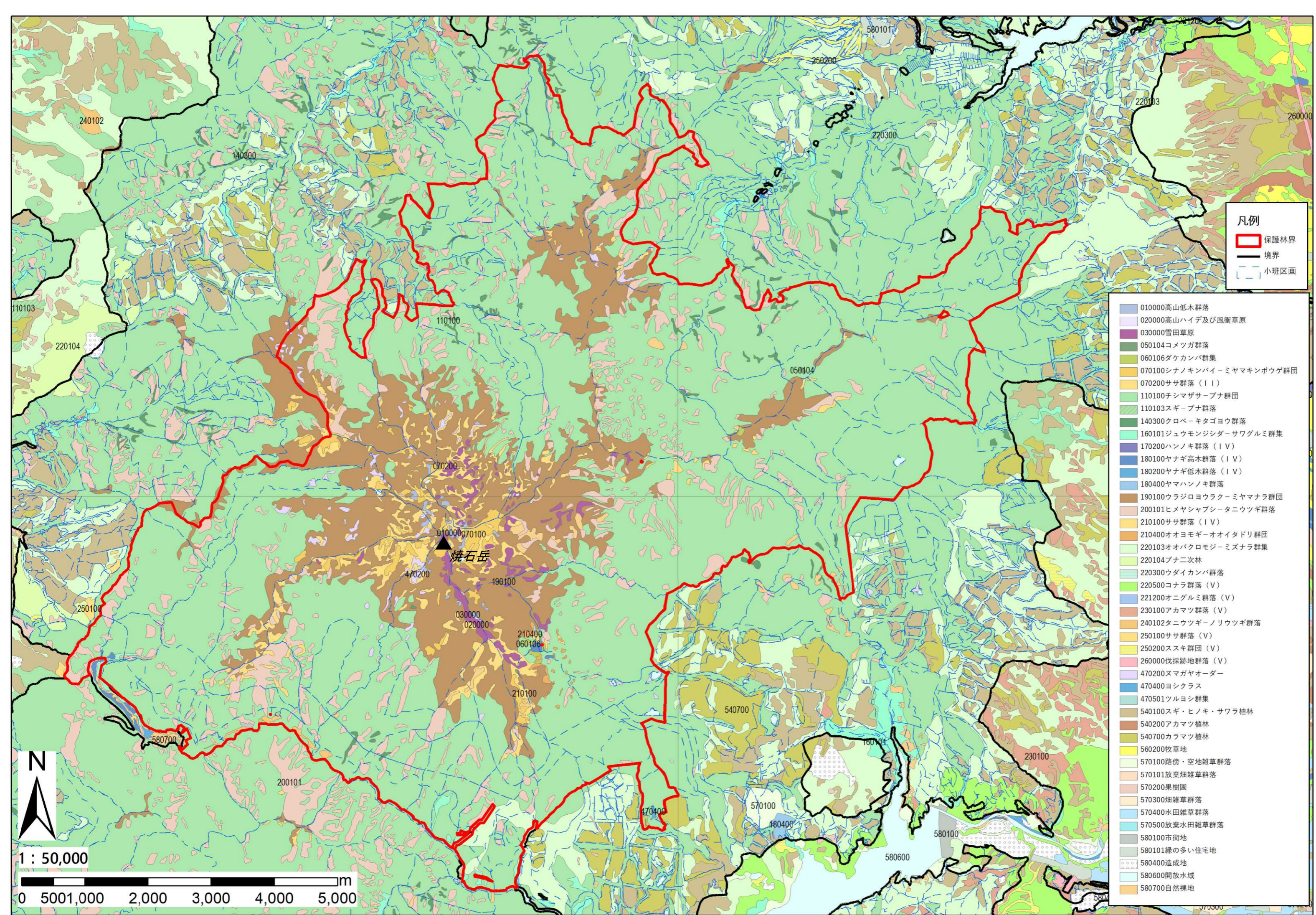


※この地図は地理院タイル及び「国土数値情報（自然公園地域データ）」（国土交通省）を使用し、東北森林管理局が作成・加工したものである。



1:50,000





凡例

- 保護林界
- 境界
- 小班区画

- 010000 高山低木群落
- 020000 高山ハイデ及び風衝草原
- 030000 雪田草原
- 050104 コメツガ群落
- 060106 ダケカンバ群集
- 070100 シナノキンバイーミヤマキンボウゲ群団
- 070200 ササ群落 (I I)
- 110100 チシマザサーブナ群団
- 110103 スギーブナ群落
- 140300 クロベークタゴヨウ群落
- 160101 ジュモンジシダーサワグルミ群集
- 170200 ハノキ群落 (I V)
- 180100 ヤナギ高木群落 (I V)
- 180200 ヤナギ低木群落 (I V)
- 180400 ヤマハノキ群落
- 190100 ウラジロヨウラクーミヤマナラ群団
- 200101 ヒメヤシブシターニウツギ群落
- 210100 ササ群落 (I V)
- 210400 オオヨモギーオオイタドリ群団
- 220103 オオバクロモジミズナラ群集
- 220104 ブナ二次林
- 220300 ウダイカンバ群落
- 220500 コナラ群落 (V)
- 221200 オニグルミ群落 (V)
- 230100 アカツタ群落 (V)
- 240102 タニウツギーノリウツギ群落
- 250100 ササ群落 (V)
- 250200 ススキ群団 (V)
- 260000 伐採跡地群落 (V)
- 470200 スマガヤオーダー
- 470400 ヨシクラス
- 470501 ツルヨシ群集
- 540100 スギ・ヒノキ・サワラ植林
- 540200 アカツタ植林
- 540700 カラムツ植林
- 560200 牧草地
- 570100 路傍・空地雑草群落
- 570101 放棄畑雑草群落
- 570200 果樹園
- 570300 畑雑草群落
- 570400 水田雑草群落
- 570500 放棄水田雑草群落
- 580100 市街地
- 580101 線の多い住宅地
- 580400 造成地
- 580600 開放水域
- 580700 自然裸地

※この植生図は、1/25,000植生図GISデータ（環境省生物多様性センター）を使用し、東北森林管理局が作成・加工したものである。

